

// 巻 頭 言 //

大阪教育大学教育学部
教授 山本 利和

1984年というずいぶん以前の話になってしまうのですが、当時、私は心理学を専攻する若い大学院研究生として博士論文を作成するための研究に向き合っていました。「空間認知の発達」というテーマで論文をまとめようとしていたので、視覚経験の無い子どもたちの移動に関心を寄せるようになり、それがきっかけで、大学院の指導教員である今田寛先生に紹介してもらい、日本ライthouseで研修を受けさせていただきました。歩行訓練や、生活訓練や、点字の読み書き指導や、オプタコンなどの支援機器の体験など、様々な指導を体験させてもらいました。1年間の予定で研修を許可してもらったのですが、結局2年間、週に1回、放出に通いました。

この時に一人の若い訓練生の白杖歩行訓練を、毎週、数ヶ月にわたって見学させてもらったことを思い出します。この方は白杖を使って、道をなめらかな足どりで歩く方でした。左右から来る車に注意しながら交差点を横断するところを初めて見た時、私はその方が交差点で的確に止まったことが不思議に思えたので、後でそのことを尋ねたら、交差点が近づいてきたことは前方の左右に動く車の音でだいたい察しがつくことと、交差点に到達していることは、横風や、杖が道に触れる音の広がりや、路面の変化などでわかることを聞かせてくれました。当時は歩行訓練について何も知らなかったなので、素朴にそうしたことを指導しているのがすごい事だと思ったものです。

私はその後、神戸市立心身障害福祉センターの対馬貞夫先生のもとで、視覚障がい児への支援に30年近く関わりました。そして、今でもそれが続いています。子どもたちへの支援はうまくいったり、うまくいかなかったりと、試行錯誤の続きですが、AMDを取り入れた乳幼児への歩行訓練や、触覚教材を使った指導や、部屋を真っ暗にしてブラックライトで光らせた教材を見せるようなNatalie Barragaが提唱したロービジョン教育の実践に取り組んでいました。今も、子どもたちを取り巻く環境を整え、持っている力を伸ばし、家族が未来

を見つけることを手助け出来ればとの想いを持ちながら指導を続けています。

35年ほど前の日本ライトハウスとの縁は今も続けさせてもらっていて、今年、日本ライトハウスの橋本理事長、關常務理事に依頼され、4日間の視覚障害生活訓練等指導者養成課程フォローアップ研修会の運営をお手伝いしました。養成部の森本さんと和角さんと共に企画段階から研修会開催に関わらせてもらいました。講師を、アメリカで歩行訓練士養成と現場での指導に関わってこられたGeorge Zimmerman先生と、Sandy Zimmerman先生御夫妻にお願いしたところ、快く引き受けてくださいました。アメリカでの歩行指導者養成は主に大学院で実施されており、資格認定も体系化されています。内容も遠隔授業と大学院での実習という組み合わせが取り入れられており、時代に即したものになっていると思えます。もともとアメリカで生まれた歩行訓練方法を日本に導入したので、ベースになる知識や技術は日本も同じです。しかし、グローバルな世界では、新しいアイデアが生まれていて、日米間での指導内容や指導についての考え方の違いが、広がっているように思えます。視覚障がい者支援に携わる我々が、今一度、海外との交流を深め、かつての日本ライトハウスがそうであったように、新しい方向性を示すことが求められていると思えます。

巻頭言を書くにあたって、昔の日本ライトハウスのことを本当に懐かしく思い出しています。私が日本ライトハウスで研修をうけた頃は、点字や移動方法といった、社会生活力を高めるための技能習得を目指して、大勢の人がリハビリテーションに励んでいました。太平洋戦争敗戦からの復興の勢いは高度経済成長をもたらし、その風が日本の福祉の世界に吹いていた頃です。戦争で失ったものを努力して取り戻そうという時代の熱気は、リハビリテーションの世界での「努力によって失ったものを取り戻そう」というエネルギーになっていたように思います。このように国の経済状態や国民の意識は、福祉や教育の世界に大きな影響を及ぼします。そうした影響の中に日本ライトハウスの活動があり社会的期待も大きいものがあると思います。高度経済成長の後、バブル崩壊と失われた20年、そして今日に続く緩やかな経済的衰退期にある豊かな日本で、昔も今も目の不自由な人の個別のニーズを大切にしながら自立を支援する日本を代表する拠点として、今後も発展を続けて欲しいと願っています。それ

を実現するためにはこれからの時代を先取りする創造性と存在感が求められるでしょう。また、日本ライトハウスの創設時からの変わらない想いを持ち続けることが必要でしょう。今後とも大きな視点から有意義な実践とリーダーシップをとり続ける組織として、一致団結して活躍してくださることを願っています。



アポロ印刷株式会社

大阪府中央区本町橋2番8号
大阪商工会議所ビルB2F
電話大阪(6942)2951(代)
FAX大阪(6942)2956
E-mail:apollo@skyblue.ocn.ne.jp

主な制作物

- ・デザイン・企画、写真撮影
- ・製品カタログ、パンフレット
- ・各種ポスター、カレンダー
- ・製品マニュアル
- ・社内報、会報
- ・教科用図書
- ・各種帳票類、契約書、
- ・カラー名刺 他